

臨床福祉学専攻

【博士前期課程】

ソーシャルワーカー 科学する実践者になる

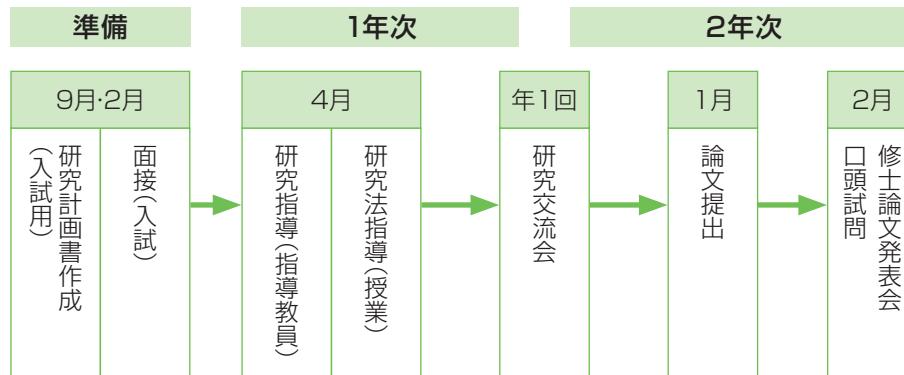
すぐれた実践者は、自らの実践をわかりやすく説明することができます。

そのため、本専攻には、ソーシャルワークの理論だけではなく、いくつかの具体的なアプローチや、自らの感性をプラスアップするのに役立つ人間学の授業があります。これらを

学ぶことで、現場で体験したことを理論に照らして意味づけたり、ソーシャルワークの価値や理論を自らの感性で問い合わせ返し、再構築していくことが可能になります。

また、調査研究法を学び、研究者としての基礎を身につけることもできます。

論文作成の流れ



特色ある科目

福祉人間学特論Ⅱ

福祉人間学特論Ⅱは現在秋学期の半期に開講の授業です。その特色は、3人の教授陣によるオムニバス形式であるところです。3人の教員がまことに担当し、社会福祉やソーシャルワークの学びを深めていく上で不可欠なベースになる考え方や考え方(人間学や社会福祉に関する哲学等)をそれぞれの専門性を活かしながら大学院生とともに授業を展開します。

畠中は、「現代社会において社会福祉とは何か」あるいは「生活問題において社会福祉とは何か」などについて考えます。成清は、福祉国家と言われ、高いレベルの社会福祉を可能にしているデンマークについてその国や思想、哲学について考えます。都村は「ケアとは何か」「ソーシャルワークとケアワーク」などについて考え、その対象者であり、支援者でもある「人とはどういう存在か」についても学びあいます。(担当者は変更になる場合があります。)

修了要件

臨床福祉学専攻 博士前期課程修了要件は下記選択必修の要件を満たし、合計30単位以上の履修が必要です。

臨床福祉学専攻

研究基礎科目群から必修5科目10単位の他に6科目12単位以上を選択必修とし計22単位以上、研究演習科目群から臨床福祉学研究演習Ⅰ・Ⅱ 8単位を必修。

また、必要な指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。

就職に関する情報

大学院修了者 業種別進路決定状況 (2022年度)

